

平成25年8月23日

第113号

# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



芳ヶ平のワタスゲ（奥に見える山は草津白根山）

（撮影者：吾妻森林管理署 永町 奈津美）

「国有林材の安定供給を目指した取組」

森林整備部 資源活用課

私と国有林「ウィルダネス只見の

ユネスコエコパーク登録に向けて」

ただみ・ブナと川のミュージアム 館長 鈴木 和次郎氏

# 国有林材の安定供給を目指した取組

## 森林整備部 資源活用課

### システム販売を通じた木材の安定供給

現在、林野庁では森林・林業の再生に向けて国有林材を含む国産材の需要の拡大に向けた取り組みが進められており、2020年国産材自給率50%を目標に木材利用ポイントや、公共建築物の木質化、地域型住宅ブランド化事業など様々な国内需要拡大の施策が採られているところです。



移動式チップパー機によるチップ加工・積込

このような中、国有林としては、木材利用の促進や木材の安定供給体制の整備等がより一層図られるよう価格や需給動向を把握しつつ国有林野の林産物を持続的・計画的に供給することとしています。

関東森林管理局では、需要・販路の確保・拡大が必要な一般材及び低質材の計画的・安定的な供給を通じて、地域における木材の安定供給体制の整備や木材の新たな需要の拡大需要者における原木の加工・流通の合理化等に資することを目的として、製材工場をはじめとする需要者と、国有林材の販売に関する相互協定を締結し、その協定に基づいて計画的に販売する安定供給システムによる販売に取り組んでいます。

### 安定供給システム

国有林材の安定供給システムによる販売の協定締結相手の選定にあつては、販売数量等を公告して協定相手を募った上で、協定相手から提出された申請書と買受けを希望する林産物の加工・流通等に係る取り組み

など、次の項目に関する企画提案を審査して選考する企画競争方式をとっています。

- ① 原木や製品の生産・流通にかかるコストの縮減を図るもの、又は付加価値を高める工夫等の取組。
- ② 森林資源の有効利用や国産材の新規需要開拓を図るもの。
- ③ 地域の林業・木材産業への貢献を図るもの。
- ④ 製材工場等と製材品需要者、または素材生産事業者等から製材品需要者までの者が連携することにより、最終製品の生産に必要な製品または原木の効率的な生産や流通を図るもの。
- ⑤ 東北地方太平洋沖地震の被災に関する復旧・復興資材の供給に関する取組。

### 平成25年度システム販売の募集

平成25年4月24日付け公募の第1回システム販売では、16森林管理署等から32物件、約10万1千m<sup>3</sup>の物件について延べ76社から応募があり、28物件、約9万4千m<sup>3</sup>が協定締結となりました。また、7月4日付けの第2回システム販売では、再募集を含め4物件、約8千m<sup>3</sup>を公募し、延べ4社の応募により、3物件6千m<sup>3</sup>が協定締結となりました。

今回のシステム販売の申請に提出



杭木に加工されたカラマツ

- ① 製紙用チップを安定的に製紙工場に供給することにより製紙用原料の国産材比率を上げるもの。
- ② 品質・用途別に選別し、自社工場でチップ加工と杭木加工を行うもの。
- ③ 移動式チップパー機による山元でのチップ加工により、直接製紙工場に納入し搬送等のコスト削減を図るもの。
- ④ 端尺材等林地残材を木質バイオマス燃料チップとして有効活用するもの。
- ⑤ バークのバイオマス燃料やオガ粉の畜産用敷料等木材のカスケード利用を図るもの。
- ⑥ 林地残材の小径木を合板単板に加工し利用するもの。

⑦国産針葉樹を原材料とした内装建材商品の開発を進めるもの。  
 ⑧国産材の2×4建築部材等の用途としての新規需要の拡大を図るもの。  
 ⑨カラマツの新規用途の取り組みとしてカラマツパレットや木道として使用するもの。  
 ⑩地元の木造住宅関連企業と連携し、地域材の需要開拓や根曲がり材の需要拡大を図るもの。  
 などの取り組みが提案され、より一層、国産材の新たな需要開発や有効利用が図られることが期待されます。



木質バイオマス燃料などに利用される端材

用間伐材の木質バイオマス等への有効利用に資するため、一定の要件を満たす民有林所有者等と国有林が連携しロットをまとめた安定供給システム販売に取り組みこととしていきます。



集成材製造の接着工程

### 国有林材の供給調整対策

#### 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催

平成23年12月林政審議会においてまとめられた提言において、国有林材の供給については「木材価格が持続可能な林業経営に必要な水準で安定的に推移することは、森林所有者、

林業事業者、木材産業の経営の安定に重要であり、国産材の2割を政策的に供給し得る国有林の優位性を活かすため、価格急変時の供給機能を發揮するための、国有林が地域や樹材種ごとの木材の価格、需要動向、地域や関係者の意見を迅速かつ的確に把握することなどの取り組みを進めるべき。」とされたところです。

この調整を実行性のあるものにするため、関東森林管理局を含む全国の森林管理局ではそれぞれ有識者等から成る国有林材供給調整検討委員会を設置し、国有林材の供給調整について、地域ごとの木材需給動向を踏まえ、供給調整の必要性、実施方法等を検討することとなりました。

木材価格の激変時における国有林材の供給調整の実施方法については、国有林材供給調整検討委員会からの意見を踏まえ、供給調整が必要と判断された場合には、  
 ①丸太の供給時期等による供給調整  
 ②丸太輸送による供給調整  
 ③備蓄林による供給調整  
 により実施することとなります。



国有林材供給調整検討委員会

会を開催しました。  
 検討委員会では、局長挨拶の後、管内森林管理署等の販売ブロック単位における素材や製材品の生産・流通・在庫の状況や価格の動向等の情報の収集・分析を基に、国有林材の供給調整の必要性を検討したところです。  
 本検討委員会は、今後、基本的に四半期に一度開催し、木材の価格や需要動向を踏まえ、供給調整の必要性、実施方法等を検討することとしています。

国有林における森林除染事業の実施状況について

森林整備部 森林整備課

森林除染事業について

国有林における森林除染事業については、平成24年7月の本誌第100号で、森林放射性物質汚染対策センター(以下、「国有林除染センター」という。)の設置や平成23年度の取組等についてお知らせしたところです。(詳細は関東局ホームページ [http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/koho/koho\\_si/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/koho/koho_si/index.html)をご覧ください)

本号では、平成24年4月の開所以降、国有林除染センターが中心となって進めてきた森林除染事業の実施状況についてお知らせします。



実施前



実施後

森林除染事業実施前後の状況  
(福島県田村市内国有林)

国有林における森林除染事業は、「平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」や環境省が策定した「除染関係ガイドライン」に基づき実施しています。具体的には、「汚染状況重点調査地域」(放射線量が1時間当たり0.23μSv以上の地域)として指定された区域の市町村が除染実施

計画を策定し、この計画の除染実施区域に国有林が含まれる場合、国有林除染センターが当該市町村等と調整して、事業を進めます。森林除染では、住宅等の生活圏から概ね20mの範囲の落葉等を除去します。

また、除去物は大型土のう袋等に詰め、仮置場まで運搬します。国有林除染センターでは、これら森林除染に係る市町村等関係機関との調整、現地調査、事業の発注・監督などの一連の業務を実施しています。

また、除去物は大型土のう袋等に詰め、仮置場まで運搬します。国有林除染センターでは、これら森林除染に係る市町村等関係機関との調整、現地調査、事業の発注・監督などの一連の業務を実施しています。

事業実施状況について

平成24年度については、福島県の川内村を始め、計8市町村の国有林で森林除染事業を実施し、概ね20m程度の放射線量の低減が見られました。今年度については、福島県内の4市町において森林除染事業を実施しています。(表1参照)

現在、国有林除染センターにおいては、これらの市町村以外にも、除染実施に向けた調整を進めているところであり、今後、除染実施計画に基づく除染作業が本格化することが見込まれることから、引き続き、市町村等関係機関と連携して着実に事業を進めて参ります。

表1

国有林森林除染事業実施状況

平成25年8月16日現在

年度	県	実施場所	実施面積 (ha)
H23	福島県	双葉郡川内村下川内字宮坂国有林	0.14
H24	福島県	双葉郡川内村下川内字岡山国有林ほか	2.74
		いわき市川前町下桶売字萩国有林	0.69
		双葉郡広野町上浅見川字五社森国有林ほか	0.06
		東白川郡棚倉町戸中那須道国有林	0.43
		二本松市永田字長坂国有林	0.28
		田村市都路町岩井沢字南向国有林ほか	1.44
	茨城県	常陸太田市小妻町字上田代国有林ほか	0.09
群馬県	桐生市黒保根町下田沢字赤面国有林	0.49	
H25	福島県	いわき市小川町上小川字戸渡国有林	0.28
		田村市都路町岩井沢字南向国有林ほか	4.08
		伊達郡川俣町飯坂字花塚山国有林	0.28
		東白川郡棚倉町北山本字楡沢国有林	2.55
		東白川郡棚倉町戸中那須道国有林	2.28
合計			15.83

注1:H23年度は肩契約により実施。

2:H25年度のいわき市、田村市、棚倉町は現在実施中であり、実施面積は予定。



高尾森林ふれあい推進センターでは、森林とふれあいたいという都民の要請に応えるため、様々な活動を行っています。

今回は、今年度春期に実施した活動の中からいくつかご紹介します。

【公募イベント】

若葉がようやく開き始めた4月26日に、一般の方25名を募集して「高尾山で春の野草を探す」と題して森林教室を行いました。

講師は、当センターの職員のほか、森林インストラクターにもお願いし



「高尾山で春の野草を探す」の様子

ました。

参加者は、色々な植物をルーペを使って観察したり、スミレの種子はアリによって散布されるといった植物にまつわる話を聞きながら、日影沢キャンプ場周辺を昼食を挟みながら4時間かけてゆっくり散策しました。

参加者は植物に詳しい人から初心者まで様々でしたが、皆さんから「余裕ある日程だったので詳しく観察できた」、「春だけでなく四季を通じてやってほしい」といった評価を頂きました。

なお、公募イベントは今年度は全部で5回計画しています。

【森林カレッジ】

今年度第一回の森林カレッジを、



森林解説の様子

一般公募したカレッジ生27名の参加を得て「森林の見方」というテーマで5月25日に実施しました。

講師に藤森隆郎博士を招いて、地球環境と森林についての講義と高尾山を登山しながらの森林の解説をして頂きました。カレッジ生は20代から70代までと幅広い年代層だったので、山頂まで登ることは目的としていかなかったのですが、登山の合間の藤森先生の話も興味深かったこともあって、山頂まで全員が登り切る事ができました。

カレッジ生からは、「次回も必ず参加する」、「森林や林業のことをもっと学びたい」といった評価を頂きました。

なお、森林カレッジは今年度は全部で5回計画しています。

【依頼イベント】

教育機関からの森林教室の依頼は、その都度受け付けていますが、春期は5月31日に八王子市内の小学校5年生97名、6月17日に同市内の小学校5年生102名の依頼がありました。

両校とも表高尾の大平地区にある森林ふれあい館を利用して、森林や林業についてのクイズ形式の授業や木工品づくり、丸太切りなどを体験しました。

生徒たちは、自然にふれる体験や

森の中での授業が楽しかったようで、羽を伸ばして動き回っていました。こうした学校関係のイベントは、参加人数が多いため、センター職員だけでなく森林ボランティア団体の協力も得ながら対応しています。



森林教室の様子（木工品作成）



森林教室の様子（丸太切り）

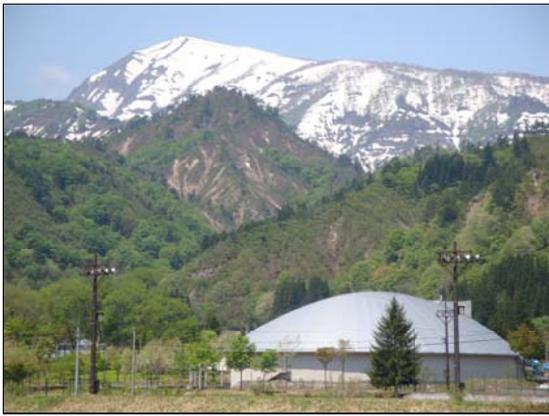
私と国有林

ウィルダネス只見の  
ユネスコエコパーク登録に向けて

ただみ・ブナと川のミュージアム 館長 鈴木和次郎

現在、私が住んでいる福島県只見町は、新潟県に隣接し、総面積こそ七万五千㊦と広いものの、人口はわずか四千七百名の過疎と高齢化の進行する町です。

あまり知られてはいませんが、尾瀬沼を水源とする只見川とその支流である伊南川の流域にあるこの地域は、標高千㊦前後の山々が連なり、その中に、浅草岳や会津朝日岳といった比較的名の知れた山もあります。町の総面積の90㊦以上が山林原野で、しかも、そのほとんどが、人手がほとんど及んでいない地域です。



浅草岳とただみ・ブナと川のミュージアム

もちろん、こうした山林原野には人家や耕作地など一つもありません。それは、この地域が日本いや世界有数の豪雪地帯であり、冬季には3㊦5㊦に及ぶ積雪が山肌を覆いつくし、その雪の沈降(重さ)と移動(雪崩)が急峻で複雑な地形を形成してきたためです。

比較的低標高にありながら、森林限界付近の高山的な景観が広がる特異的な環境は、アメリカのウィルダネス、オーストラリアのアウトバックに類似する環境と言えるかもしれません。

そして、その中核をなしているのが、南会津支署の所管する約五万㊦の国有林です。

しかし、こうした厳しい自然環境は、全く地域住民を拒否する存在ではありません。

それどころか、この地域に暮らしてきた住民は、農耕(水田や焼畑)を基盤としながらも、狩猟、採取、漁労を大きな生業として、背後に存在する豊かな森林と河川、そこから生み出される天然資源に深く依存して生活をしてきたようです。

木材も鉄砲堰や筏流しにより下流

に送流され、利用されてきました。そうした自然と人間との関わりは、近年急速に廃れてきたとはいえ、今もなお色濃く残っています。

私が今勤める只見町ブナセンターは、まさにこうした只見地域の自然環境との中で暮らしてきた人々の暮らしの資料を「ただみ・ブナと川のミュージアム」で展示し紹介しています。展示物の収集とか、調査、展示、解説などの業務は、私にとっても新たな発見の連続と言えます。

只見はそれほど奥が深く、興味ある地域です。

かつて只見町と国有林は、ブナの伐採を巡って鋭く対立してきた歴史があります。その後、関東森林管理局は、奥会津地域の国有林を保護・保全すべき貴重な自然環境と捉え、地元民の意向を反映する形で、「奥



自然環境と深く結びついた人々の暮らし(展示)

会津森林生態系保護地域」を設定しました。

そして、今日、只見町は、こうした自然環境を保護・保全し、次世代に引き継ぐとともに、その環境と資源を持続可能な形で利活用をはかり、地域の伝統文化、産業の育成を図る中で、地域の社会的な発展を目指すユネスコエコパークの登録とそれを通じた豊かな地域社会の実現に取り組んでいます。

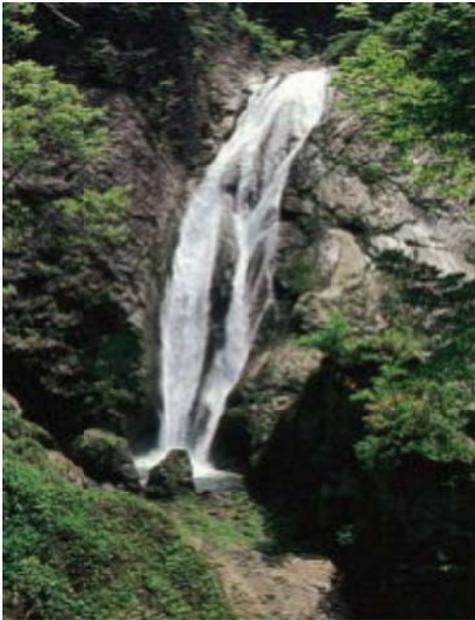
そのためには、国有林の全面的な支援と協力が不可欠であると考えます。地域住民と地域の国有林が、ユネスコエコパークを通じて新たな関係を築こうとする今、かつて一時期、国有林に身を置き、今、地方自治体の職員として、これに立ち会えることを幸運に思っています。



天然林の林分構造と動態を調査する職員

# 森づくりの最前線

下越森林管理署 村上支署 塩野町森林事務所 森林官 高橋 正樹



鈴ヶ滝「日本の滝百選」

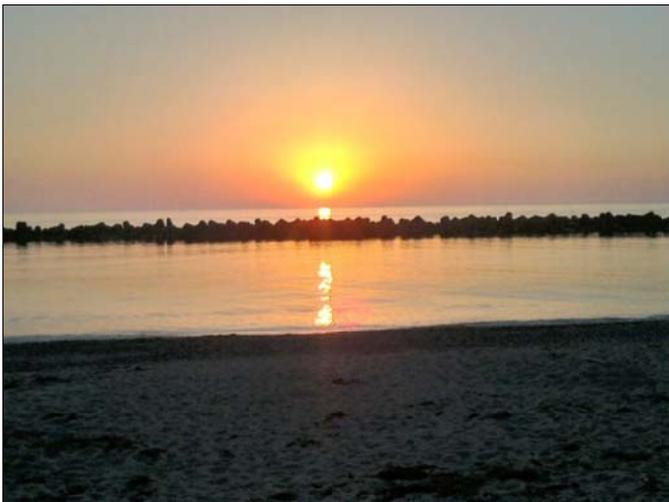
塩野町森林事務所は、新潟県の最北部、村上市に所在し、関東森林管理局管内では最北の森林事務所、約6,800畝を管理しています。

管内の名所としては、「日本の滝百選」にも選ばれた「鈴ヶ滝」、慶長年間には全国の金の生産量の3分の1を産出したと言われる「鳴海金山跡」があります。

新潟県内では林業が盛んな地域ではありますが、管内のスギは、2畝を超える積雪のためにほとんどが根曲になっており、積雪のない関東地方に比べ製品としての利用歩留まりが大きく減ってしまいます。

この曲がった材などを有効利用するため、隣接する関川村では、バイオマス発電所の建設が予定されており、地域からは早期の稼働が期待されています。

当事務所管内は豪雪地であるとともに、山も急峻ですが、昔から地域と国有林の結びつきが強く、今でも7地区と普通共用林野契約を結んでおり、その地区の方は雪解けと共にワラビ、ゼンマイ、タラノメ、秋にはクルミ、トチの実、ナメコ等山の幸を求めて国有林野に入っています。



日本海に沈む夕日



小学生によるブナの植樹

地元塩野町小学校の子ども達も3～6年生が毎年9月に新保岳登山を行っており、併せてブナを植栽し、山への感謝の心を育てています。

森林官として、このような地域の人々からこれまで以上に信頼されられるように山作りをしていけたらと考えます。

また、8月いっぱい当村上地域は日本海で岩ガキの採れるシーズンであり、山の栄養が三面川を下り海に流れ大量のプランクトンのエサとなって大きなおいしいカキとなります。

山の恵みが海に巡りその味わいを深くしています。

秋には大量のサケが遡上しますがやはりいい山河無くしては得られない宝物です。

山無くしては味わえない旬をぜひとも味わいに村上へお越し下さい。



母なる川「三面川」

# 管内のいちおしスポット



## チャツボミゴケ公園

■ 吾妻森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/agatuma/index.html>  
 〒377-0423 群馬県吾妻郡中之条町大字伊勢町771-1  
 TEL:0279-75-3344(代表) FAX:0279-75-3346



チャツボミゴケ公園(レンゲツツジとチャツボミゴケ)

かつてこの地には鉄鉱石の鉱床があり、露天掘りによる採掘が行われていましたが、自然の力なのか露天掘りの窪みにチャツボミゴケが自生し、現在の風景が育まれています。

また、このチャツボミゴケが県天然記念物(平成25年3月)に指定され、踏み荒らされたりしないように保護のための整備を中之条町で行っています。

季節毎に違った表情を見せるチャツボミゴケ公園は、リピーターが多く、口コミで人気広がっています。

春はレンゲツツジの橙色と緑のチャツボミゴケ、夏は緑鮮やかなチャツボミゴケ、これから秋の紅葉とチャツボミゴケは特に見応えがありますので、周辺の芳ヶ平、野反湖、近隣の温泉と合わせて心身を癒やして訪れて見て下さい。

(写真提供：中之条町)

(吾妻森林管理署 広報広聴連絡官 池田 修)

名湯として知られる草津温泉に近い群馬県中之条町六合(くに)地区の山あい、ぽっかりと空いた空間に温泉水が湧き出しています。

そこには、ほのかに硫黄の香りが漂い、モコモコとした色鮮やかな「緑のじゅうたん」(チャツボミゴケ)が広がっています。

チャツボミゴケは、酸性の条件下でしか生育できない珍しい苔(こけ)で、国内最大級の群生地がチャツボミゴケ公園です。



チャツボミゴケの群生



チャツボミゴケ公園ルートマップ

編集発行所  
 FAX集所  
 (0277) 22301393  
 (0277) 22301393  
 総務課  
 関東森林管理局  
 池田 修